

平成28年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 社会科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
社会科調査委員会

社会

I 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習指導要領に示されている社会科の目標および内容の、基礎的・基本的な事項について、いかに生徒に定着しているかを、観点別に調査・診断することを意図して問題を作成した。
- (2) 作問は、本市使用の教科書を中心に行った。
- (3) 出題の傾向
 - ◎ 第1学年は、平成24年度に実施された学習指導要領に示されているもののうち、本年度4月から10月までの学習内容について出題した。
 - ◎ 第2学年は、平成24年度に実施された学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。
 - ◎ 第3学年は、平成24年度に実施された学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。

なお、出題範囲の決定にあたり、各学校より提出された学習指導に関するアンケート調査の集計結果を参考にした。

<誤答分析の表記について>

「考察」について、80%以上を「十分」、60～79%を「一応」、35～59%を「やや不十分」、34%以下を「不十分」の言葉を用いて表記した。また、各問題の観点・内容にあわせた文章を作成し、特別な間違いについても記述した。

問題用紙 写真・地図の所蔵・提供(掲載順)

知恩院／徳川美術館／Jack Versloot／SPUTNIK／時事通信フォト／hemis.fr／AFP＝時事／正倉院宝物殿／Tyler Olson／徳川美術館／真正極楽寺／宮内庁三の丸尚蔵館／東京大学史料編纂所／建仁寺／石川県立歴史博物館／国会図書館／東京国立博物館／横浜開港資料館／明治神宮外苑聖徳記念絵画館／イギリス国立鉄道博物館／公益財団法人美術院／CTK／毎日新聞社

2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問 1	<p>●人類の出現と文明のおこり</p> <p>・人類の出現と文明のおこりについて、資料から正しく判断し、理解していることをねらいとしている。</p>	<p>●中世の日本と社会の変化</p> <p>・中世の日本と社会の変化について、国内のできごとに触れながら、その特徴について正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●現代社会の特徴</p> <p>・資料を参考に、現代社会の特徴を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 2	<p>●古代の日本</p> <p>・古代の日本において、東アジアとの外交政策と日本の国家の形成の過程を正しく判断し、理解していることをねらいとしている。</p>	<p>●近世の日本と社会の様子</p> <p>・近世の日本と社会の様子について、織田信長と豊臣秀吉の政策に着目しながらその過程について、正しく判断し理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本国憲法と基本的人権</p> <p>・日本国憲法と基本的人権について、具体的な事例をもとに正しく判断し、理解していることをねらいとしている。</p>
問 3	<p>●原始時代～古代の律令制度</p> <p>・日本における原始時代の人々の生活の様子から古代における律令制度のもとでの人々の生活までの変化について、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●近世の政治と社会</p> <p>・近世の政治と社会について、江戸幕府が幕藩体制を固めていった経緯とその支配について、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本の政治のしくみ</p> <p>・日本の政治のしくみについて、三権のそれぞれの役割を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 4	<p>●鎌倉幕府の成立</p> <p>・鎌倉幕府の成立を通して、武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開と、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●近代の日本と世界</p> <p>・近代の日本と世界について、欧米諸国で起こった出来事や幕末の社会の様子について、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本の選挙制度</p> <p>・日本の選挙制度について、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 5	<p>●世界の地域構成</p> <p>・世界の地域構成に関して、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとする。</p>	<p>●北アメリカ州の地域的特色</p> <p>・北アメリカ州の地域的特色について、産業や自然環境の視点で資料を活用し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●明治維新と近代国家</p> <p>・明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、日本の国際的地位が向上したことを、正しく理解しているかを問うことをねらいとしている。</p>
問 6	<p>●世界各地の人々の生活と環境</p> <p>・世界各地の人々の生活と環境に関して、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとする。</p>	<p>●南アメリカ州とオセアニア州</p> <p>・南アメリカ州とオセアニア州の地域的特色について、自然環境の視点で資料を活用し、正しく判断し理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第一次世界大戦</p> <p>・第一次世界大戦の内容と世界に与えた影響について、正しく理解しているかを問うことをねらいとしている。</p>
問 7	<p>●アジア州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、アジア州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとする。</p>	<p>●日本の姿と地形</p> <p>・日本の姿と地形について、資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第二次世界大戦までの日本</p> <p>・第二次世界大戦までの日本の動きを、世界との関係や人々の生活と絡めて考察し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 8	<p>●ヨーロッパ州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとする。</p>	<p>●世界と比べた日本の地域的特色</p> <p>・世界と比べた日本の地域的特色について資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第二次世界大戦後の日本</p> <p>・第二次世界大戦後の日本のようすや国際社会について、正しく判断し、適切に考察し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 9	<p>●アフリカ州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、アフリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとする。</p>	<p>●九州地方と中国・四国地方</p> <p>・九州地方と中国・四国地方の地域的特色について、自然環境と他地域との結びつきの視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中部地方の地域的特色</p> <p>・中部地方の地域的特色について、産業の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 10	—	—	<p>●関東地方の地域的特色</p> <p>・関東地方の地域的特色について、人口や都市の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 11	—	—	<p>●身近な地域の調査</p> <p>・身近な地域の調査について、地形図を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>

Ⅱ 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会第1学年】

問題番号	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率			
	大問	小問	知・技	思・判・表	思・判・表					知・理		
1		ア	○		○	◎	人類の出現と文明のおこり	人類の進化について、正しい順に並び替えることができるかを問う。	84	0		
		イ	○		○	◎		古代中国の建造物について、正しく理解しているかを問う。	81	2		
		ウ		○	◎	○		◎	古代文明が築かれた場所と文字について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	26	2	
		エ	○					◎	古代ローマ帝国について、正しく理解しているかを問う。	94	1	
		オ		○	◎	○			◎	古代中国の様子について、資料から適切に判断しているかを問う。	68	2
2		ア	○			◎	古代の日本の外交と国家の形成	弥生時代における中国との結びつきについて、正しく理解しているかを問う。	27	1		
		イ	○					◎	邪馬台国の支配者について、正しく理解しているかを問う。	92	5	
		ウ	○					◎	渡来人が日本に伝えたものについて、正しく理解しているかを問う。	63	0	
		エ		○	◎			○	◎	十七条の憲法の内容について、資料を読み取り、適切に判断する力を問う。	78	1
		オ	○			○		◎	◎	奈良時代の政治について、正しく理解しているかを問う。	61	2
		カ	○			○		◎	◎	平清盛が整えた港の場所について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	38	2
		キ		○	◎					日本の古代の形成の過程について、適切に判断しているかを問う。	59	2
3		ア		○	◎	○	原始・古代の人々の生活	弥生時代の生活の様子について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	85	1		
		イ	○		○	◎		◎	律令制度の下において、農民の負担について正しく理解しているかを問う。	69	1	
		ウ	○					◎	◎	律令制度の下において、土地の制度について正しく理解しているかを問う。	72	1
		エ		○	◎	○				平安時代の文化の特色について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	49	2
4		ア	○		◎	○	鎌倉時代の社会と文化	鎌倉に幕府が開かれた理由について、資料を活用し、適切に表現できるかを問う。	54	1		
		イ	○			○		◎	◎	鎌倉幕府のしくみについて、正しく理解しているかを問う。	62	2
		ウ	○			○		◎	◎	承久の乱の影響について、正しく理解しているかを問う。	50	2
		エ	○		○	◎		◎	◎	御成敗式目の内容について、正しく理解しているかを問う。	51	2
		オ	○		○	◎		◎	◎	封建制度のしくみについて、正しく理解しているかを問う。	57	22
5		ア		○	◎	○	世界の地域構成	地球上における陸地と海洋の位置について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	52	1		
		イ	○			◎		○	◎	世界の主な国の名称と位置について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	90	1
		ウ	○		○	◎				緯度と経度について、資料を適切に読み取る力を問う。	43	4
		エ	○			◎		○	◎	南アメリカ州の名称と位置について、正しく理解しているかを問う。	75	1
		オ	○		○	◎				地図を読み取り、島国について、正しく理解しているかを問う。	86	4
		カ	○		○	◎				正距方位図法の地図について、資料を適切に読み取る力を問う。	57	4
		キ	○		○	◎				地図帳のさくいんの使い方について、正しく理解しているかを問う。	63	5
6		ア	○		○	◎	世界各地の人々の生活と環境	標高の高い地域の農作物について、正しく理解しているかを問う。	87	1		
		イ	○		○	◎		◎	寒い地域の雨温図について、資料を適切に読み取る力を問う。	85	1	
		ウ		○	◎	○			◎	暑い地域に住む人々の伝統的な住居について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	69	1
		エ		○	◎	○			◎	乾燥した地域に住む人々の服装について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	77	1
		オ	○		○	◎		◎	◎	温帯の分布している地域について、正しく理解しているかを問う。	66	2
7		ア		○	◎	○	世界の諸地域(アジア州)	アジアの年間降水量と農業について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	35	4		
		イ	○		○	◎		◎	中国の人口密度と人口増加率について、資料を適切に読み取る力を問う。	59	4	
		ウ	○		○	◎			◎	東南アジアの主な国の輸出品目について、資料を適切に読み取る力を問う。	60	6
		エ	○			○		◎	◎	西アジアのエネルギー資源について、正しく理解しているかを問う。	63	4
		オ	○		○	◎			◎	インドの様子について、正しく理解しているかを問う。	77	7
		カ		○	◎	○			◎	東南アジアに日本企業が進出した理由について、資料を活用し、適切に表現できるかを問う。	30	28
8		ア	○		○	◎	世界の諸地域(ヨーロッパ州)	ヨーロッパの言語と宗派の分布について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	76	6		
		イ	○			◎		○	◎	ヨーロッパの農業について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	46	7
		ウ	○		○	◎			◎	ヨーロッパの食料自給率について、資料を適切に読み取る力を問う。	81	6
		エ	○		○	◎			◎	ヨーロッパの労働者の移動について、資料を適切に読み取る力を問う。	76	8
		オ	○			◎		○	◎	EUの特徴について、正しく理解しているかを問う。	64	9
		カ		○	◎	○			◎	EU加盟国の最低賃金について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	55	11
9		ア	○		○	◎	世界の諸地域(アフリカ州)	アフリカ諸国の主な使用言語について、資料を適切に読み取る力を問う。	68	12		
		イ	○		○	◎		◎	アフリカ諸国の気候について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	47	12	
		ウ	○		○	◎		◎	アフリカ諸国の経済の課題について、正しく理解しているかを問う。	52	12	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	66.1
思考・判断・表現	55.4

2. 主な誤答と分析【社会第1学年】

(1) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
1	ア	3	84	0	1 4	8 7	(ウ)では、古代文明がおこった場所や文字の理解が不十分であった。特にエジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明が混同している傾向があった。文明の場所(川)、文字、特色などを略地図を用いながら理解を深める必要がある。 (オ)では、秦の始皇帝の政策における万里の長城を理解していない生徒が多かったようである。誤答として、説明文の内容を都市国家(ローマ帝国)の説明と勘違いしていたと推測できる。古代文明の特色をとらえる授業の工夫が必要である。
	イ	1	81	2	2 4	9 7	
	ウ	地域: 4 文字: 2	26	2	3 1	26 22	
	エ	3	94	1	1 2	2 2	
	オ	2	68	2	4 1	17 7	
2	ア	2	27	1	3 4	28 27	(ア)では、古代の東アジアとの関わりの理解が不十分であった。当時の日本の国王が使いを送った国名を選択するために、資料をもとにした正しい判断が不十分であった。資料から読み取ったことをもとにその当時の時代を大観できるような授業改善をしたい。 (カ)では、歴史上の人物にとって重要な場所を選択する問題であるが、理解が不十分である。全体的に地図上から選択することに対して苦手意識がうかがえる。古代の港を選択するのはやや難問だが、教科書や地図帳を使って、普段の授業の中で位置を確認させたい。 (キ)では、律令国家の確立における重要な歴史的事象を時代順に並び替える問題であった。院政の後に、保元の乱がおこる時代の流れがつかめていない傾向が多少うかがえる。時代を大観する授業の改善が必要である。
	イ	卑弥呼	92	5	しらぎ 漢字ミス	1 1	
	ウ	4	63	0	1 2	16 12	
	エ	1	78	1	2 3	11 9	
	オ	3	61	2	1 4	14 12	
	カ	2	38	2	4 1	25 19	
	キ	2	59	2	3 1	14 13	
3	ア	1	85	1	3 4	8 3	原始から古代までの人々の生活についての問題(ア)～(ウ)は、全体的に一応の理解はみられた。ただし、(エ)の古代の文化(建築物)に関する問題は理解がやや不十分であった。法隆寺が平安時代の建築物であると認識している生徒が多くみられた。古代～中世の建築物は多く存在しているので、建築された時代が分かるだけでなく、どのような思いを込めて建築したかなど、もう少し深く追究させる文化史を構築したい。
	イ	3	69	1	2 1	21 8	
	ウ	4	72	1	3 1	17 5	
	エ	1	49	2	4 3	21 15	
4	ア	海や山に囲まれた地形で、攻撃されにくいから。	54	1	内容が合っているが、地形や攻撃の語句を使用していない。	11	鎌倉時代の武家政治の成立についての問題は全体的に正答率は50%程度であった。(ア)の論述に関しては、指定された語句を使用していないものが目立ったが、なかには、鎌倉幕府側からみて、切り通しは「攻撃しやすい」地形であると出題の意図とは異なる解答をする例も見られた。 (ウ)、(エ)などの歴史的事象の因果関係の理解がやや不十分であった。歴史的事象の理由や時代背景を読み取らせ、考えさせるような授業展開をする必要がある。 (オ)では、封建制度の理解を図る問題であるが、理解がやや不十分であった。また、無答率をもっとも高かった問題でもある。武家政治における知識の定着を図るために、探究心が高まるような課題提示が必要である。
	イ	4	62	2	2 1	16 11	
	ウ	2	50	2	1 3	21 18	
	エ	3	51	2	1 2	20 14	
	オ	奉公	57	22	味方 ご恩	3 3	
	カ	1	56	2	4 2	22 11	

(2) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
5	ア	3	52	1	1	27	主な国々の名称と位置・特徴は十分理解ができている。大陸と海洋の分布、緯度と経度、正距方位図法の読み取りがやや不十分であった。授業時で地図帳を使用し、様々な資料を見る機会を増やしていくことで定着させていきたい。
					4	15	
	イ	1	90	1	4	4	
					3	3	
	ウ	2	43	4	4	31	
					3	19	
	エ	4	75	1	1	9	
				3	8		
	オ	4	86	4	3	5	
				1	4		
	カ	1	57	4	4	25	
				2	8		
	キ	4	63	5	3	24	
				1・2	4		
6	ア	1	87	1	3	8	雨温図や地域の衣食住といった資料から生活の様子を読み取ることは理解できているが、各国の主な宗教の分布について、地図上を使っての読み取りが不十分であった。知識として教科書の文章から理解させるだけでなく、地図帳や様々な資料から読み取る機会を増やし、繰り返し取り組むことで定着させていきたい。
					2	3	
	イ	2	85	1	4	9	
					1	3	
	ウ	4	69	1	2	22	
					3	7	
	エ	1	77	1	4	18	
				2	3		
	オ	3	66	2	2	25	
				1	6		
	カ	3	39	3	2	24	
				4	24		
7	ア	3	35	4	1	32	アジアの年間降水量の分布と気候に合わせた農業の考察が不十分であった。また、2つの資料を比較してその違いを読み取ることも不十分であった。改善としては、資料を見るだけでなく、白地図を使って色分けをするなど、実際に作業をしながら身につけさせていきたい。また、資料を見てその違いや変化について、日頃の授業から論述させていく必要がある。そのようになった背景を教科書の文章から気づかせることを意識して取り組ませていきたい。
					2	20	
	イ	4	59	4	1	17	
					3	13	
	ウ	2	60	6	4	15	
					3	12	
	エ	1	63	4	3	17	
				2	9		
	オ	3	77	7	1	8	
				4	5		
	カ	ASEAN加盟国が拡大し、日本企業の進出先が広がった。	30	28	ASEAN加盟国の拡大にふれていない。		
8	ア	4	76	6	1	9	ヨーロッパの農業地域について、各問の資料の読み取りは理解できているが、気候に合わせた農業の考察が不十分であった。改善としては、地図を使ってその地域の気候に合わせた農業の特色を読み取り、その国で作られる農産物を確認させることが必要である。そして農産物の生産量上位の国の位置を白地図などを用いて確認し、ヨーロッパの農業全体へと結び付けていけるよう指導していく必要がある。
					3	6	
	イ	2	46	7	1	21	
					3	21	
	ウ	4	81	6	3	7	
					2	4	
	エ	3	76	8	1	9	
				2	6		
	オ	2	64	9	3	19	
				2	6		
	カ	1	55	11	4	17	
				3	10		
9	ア	4	68	12	2	7	アフリカ州の気候の特色を資料を用いて考察することがやや不十分であった。また、モノカルチャー経済についての理解がやや不十分であった。改善としては、アフリカ各国が抱えている課題について自然や歴史と各産業を関連させて身につけさせる必要がある。
					3	7	
	イ	3	47	12	2	15	
				1	14		
	ウ	2	52	12	3	21	
				4	9		

Ⅲ 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会第2学年】

問題番号		趣旨		観点		問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率		
大問	小問	知・技	思・判・表	思・判・表	知・理						
1	(ア)		○	◎		人類の出現と文明のおこり	元寇後の社会の様子について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	57	1		
	(イ)	○			◎		後醍醐天皇について、正しく理解しているかを問う。	65	0		
	(ウ)	○		○	◎		室町幕府のしくみについて、資料から適切に選択する力を問う。	39	0		
	(エ)	○		○			◎	日明貿易の内容について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	52	1	
	(オ)		○	◎			○	室町時代の商業のしくみについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	37	1	
	(カ)		○	○	○			応仁の乱の様子について、資料から適切に選択する力を問う。	36	1	
	(キ)	○					◎	山城の国一揆について、正しく理解しているかを問う。	24	1	
2	(ア)	○			◎	近世の日本と社会の様子	バスコ＝ダ＝ガマの航路について、資料を活用し、適切に判断しているかを問う。	47	1		
	(イ)	○		○	◎		織田信長の政策について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	69	1		
	(ウ)	○			◎		◎	大阪城の場所について、資料から適切に選択する力を問う。	63	1	
	(エ)	○		○			◎	豊臣秀吉の太閤検地について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	74	1	
	(オ)	○		○			◎	桃山文化について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	57	1	
3	(ア)	○		○	◎	近世の政治と社会	武家諸法度について、正しく理解しているかを問う。	63	1		
	(イ)		○	◎	○		参勤交代が大名に与えた影響について、資料を活用し、適切に表現できるかを問う。	24	27		
	(ウ)		○	◎	○		江戸幕府の外交政策の転換について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	38	1		
	(エ)	○			◎		○	元禄文化の特色について、資料から適切に選択する力を問う。	57	1	
4	(ア)		○	◎		近代の日本と世界	享保の改革について、正しく理解しているかを問う。	50	1		
	(イ)	○			◎		◎	近代のフランスの様子について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	41	1	
	(ウ)	○		○	◎		◎	資本主義と社会主義について、資料を活用し、正しく理解しているかを問う。	53	1	
	(エ)		○	◎	○			◎	幕末の経済の様子について、資料を活用し、正しく判断しているかを問う。	75	1
	(オ)	○					◎	◎	幕末に起こったできごとについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	32	1
5	(ア)		○	◎		北アメリカ州の地域的特色	大政奉還の様子から徳川慶喜について、正しく理解しているかを問う。	70	1		
	(イ)	○			◎		◎	北アメリカ州の地形について、正しく判断し理解しているかを問う。	71	1	
	(ウ)		○	◎	○			◎	アメリカの人種構成について、正しく理解しているかを問う。	43	1
	(エ)	○			◎			◎	時差について、正しく計算をして答えを出せることができるかを問う。	47	2
6	(ア)		○	◎		南アメリカ州とオセアニア州の地域的特色	アメリカの農業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	79	1		
	(イ)		○	◎	○			◎	南アメリカ州の地形について、正しく理解しているかを問う。	40	1
	(ウ)	○			◎		○	◎	南アメリカ州の産業の変化について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	82	1
	(エ)		○	◎	○			◎	南アメリカ州の自然環境について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	31	1
7	(ア)	○			◎	日本のすがたと地形	オセアニア州の気候について、雨温図を適切に読み取り、正しく判断しているかを問う。	39	1		
	(イ)	○			◎		◎	オセアニア州の産業の変化について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	72	1	
	(ウ)	○			◎		◎	◎	日本の領土の範囲について、正しく理解しているかを問う。	59	1
	(エ)	○			◎		◎	◎	日本の領土について、正しく理解しているかを問う。	58	1
	(オ)	○		○			◎	◎	排他的経済水域の範囲について、正しく理解しているかを問う。	64	1
8	(ア)	○			◎	世界と比べた日本の地域的特色	日本の土地利用について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	80	1		
	(イ)		○	◎	○			◎	都道府県や県庁所在地の位置について、正しく理解しているかを問う。	41	2
	(ウ)	○			◎		○	◎	世界の地形について、正しく理解しているかを問う。	53	19
	(エ)		○	◎	○			◎	世界と日本の河川について、複数の資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	53	19
	(オ)		○	◎	○			◎	世界の人口について、資料から適切に選択する力を問う。	60	2
	(カ)	○			◎		○	◎	日本の電力構成の変化について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	69	2
9	(ア)	○			◎	九州地方と中国・四国地方の地域的特色	日本の林業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	71	2		
	(イ)	○			◎		◎	日本の漁業について、資料から適切に選択する力を問う。	53	3	
	(ウ)		○	◎	○			◎	九州地方の位置について、正しく理解しているかを問う。	67	2
	(エ)	○			◎		○	◎	九州地方の地形について、正しく理解しているかを問う。	66	2
	(オ)		○	◎	○			◎	沖縄県と東アジア諸国との位置関係について、資料から読み取り、適切に選択する力を問う。	77	3
	(カ)	○			◎		○	◎	沖縄県の雨温図について、資料から適切に選択する力を問う。	70	3
	(キ)	○		○	◎			◎	四国・中国地方の変化について、正しく理解しているかを問う。	63	3
(ク)	○		○	◎		◎	四国地方の農業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	72	4		
							◎	◎	広島県の世界遺産について、正しく理解しているかを問う。	79	4
							◎	◎	四国・中国地方の交通網の発達について、資料から読み取り、適切に選択する力を問う。	68	4

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	58.4
思考・判断・表現	54.1

2. 主な誤答と分析【社会第2学年】

(1) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
1	ア	2	57	1	1 4	20 20	鎌倉幕府が滅亡するまでの流れと関わった人物、足利義満が行った対外政策については一応できている。しかし、室町幕府のしくみや社会の変化について、時代背景や社会情勢を読み取れていないので、時代区分と出来事を照らし合わせて確認していく必要がある。また、応仁の乱以降、幕府の力が衰えていく中で、地方の武士や民衆が力を伸ばし、一揆が発生したことや下剋上の世の中へ進んでいったことを資料を通して確認していく必要がある。武士や民衆など、様々な人たちが活躍した中世という時代を大観する学習を行う必要がある。
	イ	3	65	0	1 2	15 11	
	ウ	1	39	0	4 3	26 21	
	エ	4	52	1	2 3	18 17	
	オ	3	37	1	1 4	29 22	
	カ	2	36	1	3 4	23 21	
	キ	1	24	1	3 4	33 25	
2	ア	2	47	1	3 4	22 19	織田信長と豊臣秀吉の取り組み、桃山文化の理解については、一応できている。しかし、ヨーロッパ諸国が世界進出をするきっかけとなった新航路の開拓については、やや不十分である。航路を発見した人物と当時の社会情勢の関わりを理解し、資料を通して航路を確認することが必要である。ヨーロッパの世界進出が織田信長と豊臣秀吉の取組に深く関わっていることを気づかせたい。
	イ	3	69	1	2 4	11 11	
	ウ	3	63	1	2 1	20 11	
	エ	1	74	1	3 2	11 10	
	オ	4	57	1	2 3	15 15	
3	ア	4	63	1	2 3	21 12	江戸幕府のしくみや文化の形成、徳川吉宗の改革については、一応できている。しかし、幕藩体制や対外政策の理解については不十分である。イの正答率は24%で、無答が27%であった。問題の意図を読み取れていないことが要因だと考えられるが、藩の財政と参勤交代が繋がっていない状況なので、参勤交代の内容や幕藩体制の意味を理解することが必要である。また、ウについては、禁教令からオランダ商館を出島に移すまでの時代の大きな流れを確認することが必要である。
	イ	参勤交代に多くの費用がかかり、藩の財政が苦しくなった。	24	27	藩の財政への負担が大きいことに触れていない。		
	ウ	2	38	1	3 1	30 20	
	エ	4	57	1	1 3	16 14	
	オ	1	50	1	3 4	22 20	
4	ア	3	41	1	4 2	34 14	開国後の貿易品目や物価の変動、大政奉還に関わった人物については、一応できている。しかし、ヨーロッパの人々が自由や平等などの人権を求めて立ち上がった経緯や各国の社会情勢の理解についてはやや不十分である。産業革命を成し遂げた欧米諸国が、アジアに進出するまでの過程を読み取り、日本の開国に大きな影響を与えたことを時代背景を踏まえて確認する必要がある。エについては、欧米諸国との関わりを踏まえて、因果関係を捉えながら、時代の流れを確認することが必要である。
	イ	1	53	1	3 2	22 15	
	ウ	2	75	1	3 1	11 9	
	エ	2	32	1	1 3	24 24	
	オ	4	70	1	1 3	15 9	

(2) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
5	ア	3	71	1	2 1	11 9	北アメリカ州の地形や農業の特色に関する問題の正答率はおおむね十分なのであった。一方で、アメリカの人種構成を問う問題や、時差についての問題への正答率は不十分であった。多民族国家であるアメリカの民族への理解は、アメリカ合衆国を理解するうえでも重要なもので、資料を読み取ったりアメリカの時事的な話題を取り上げたりしながら、授業の中で理解させていきたい。また、時差については計算ができるだけでなく、その仕組みからしっかりと理解させたい。
	イ	2	43	1	1 3	25 19	
	ウ	1	47	2	4 2	19 17	
	エ	1	79	1	2 3	7 7	
6	ア	2	40	1	3 1	30 15	南アメリカ州の産業や貿易については資料を十分に読み取ることができ、その特徴をとらえることができた。一方で、南アメリカ州の地形や気候についての理解は十分でないことが分かった。地理の学習において、自然・文化・経済など、それぞれの観点から地理的な特徴を理解する方法がある。中でも、地形や気候といった自然環境から得られる情報は大きく、様々な資料や文献からそれを読み取る力は大切である。また、主な都市名や、山・川の名前など基礎的な知識を地図帳や地球儀からとらえさせる学習を授業の中で積極的に取り入れていきたい。
	イ	3	82	1	4 1	7 6	
	ウ	4	31	1	1 2	42 14	
	エ	4	39	1	2 3	37 15	
	オ	3	72	1	1 2	13 9	
7	ア	4	59	1	2 3	18 17	日本の姿と地形については、主な地形名を模式図から読み取る力は十分についている様子が見えかける。一方で、都道府県名や都道府県庁所在地名とその位置の理解が十分ではない様子が見受けられた。小学校の社会科学習でも力を入れてきた日本の都道府県の場所や、都道府県庁所在地、各地域の特産品に代表されるような地域的特色を、小テストの実施など、様々な工夫で知識として定着させる場面を増やすことが引き続き求められる。
	イ	3	58	1	1 2, 4	23 9	
	ウ	1	64	1	2 3	16 15	
	エ	4	80	1	1 2	11 5	
	オ	4	41	3	2 3	23 18	
8	ア	環太平洋造山帯	53	19	アルプス・ヒマラヤ造山帯		世界と比べてみた日本については、日本の林業への理解は深まっている様子が見受けられるが、自然環境や人口構成、漁業についての理解は十分とは言えない結果となった。また、日本の河川の特色を資料から読み取り、文章で表現する問題では、問題の指示にある「流れ」「流域面積」の2語を使わず、不正解になるものが見られた。日本の地理的な特色を読み取る方法として、日本国内での比較から地域格差を読み取る方法と、諸外国と比較することで我が国の特色を読み取る方法の二つが考えられる。ここでは、様々な資料や地理的事象を取り上げ、海外と比較することで日本の特色を浮かび上がらせたい。そのためにも、日常の授業の中で複数の資料を読み取り、そこから共通の特色や差異を見つける力を継続して育てたい。
	イ	日本の川は、流れが急で流域面積が小さい。	53	19	条件を一つだけしか使わない誤答が見られた。		
	ウ	2	60	2	1 3	27 8	
	エ	1	69	2	3 4	19 6	
	オ	3	71	3	1 2	11 9	
	カ	3	53	3	4 1, 2	18 13	
9	ア	4	67	2	3 2	15 9	「自然から見た九州地方」「他地域との結びつきから見た中国・四国地方」については、沖縄の地理的特色を読み取る問題や、日本の世界遺産に関する問題はおおむね十分な理解が見られた。一方で、地名の理解などが不十分な面が見られた。日本の地理については、地域的特色を動的に捉えることが求められている。今回は九州地方を自然環境の視点から、中国・四国地方を他地域との結びつきの視点から問うことにした。九州地方では自然環境の中でも火山に関する事象や、沖縄の温暖な気候を取り上げ、それと関連した産業の特色や生活の様子を取り上げた。中国・四国地方では様々な交通網を取り上げ、モノや人の往来にどう影響しているかを資料を基に読み取らせた。このように、ある事象が、様々な他の事象に影響を与えているようすを資料を読み取ったり、生徒同士の自主的な学びあい活動の中から気づかせるような授業を展開したい。
	イ	2	66	2	4 3	20 8	
	ウ	1	77	3	3 2	8 6	
	エ	4	70	3	3 1, 2	12 7	
	オ	2	63	3	1 3	15 10	
	カ	2	72	4	3 1, 4	10 7	
	キ	4	79	4	3 1, 2	6 5	
	ク	1	68	5	3 2	20 5	

IV 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会第3学年】

問題番号		趣旨		観点		問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率	
大問	小問	知・技	思・判・表	思・判・表	知・理					
1	ア	○			◎	人類の出現と文明のおこり	日本の食料自給率について、資料を適切に読み取る力を問う。	90	2	
	イ		○	◎	○		日本の少子高齢化について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	85	0	
	ウ	○			○		◎	日本の自然災害について、正しく理解しているかを問う。	98	0
2	ア	○			◎	日本国憲法と基本的人権	日本国憲法の三大原則について、正しく理解しているかを問う。	84	0	
	イ	○			◎		自由権について、正しく理解しているかを問う。	92	0	
	ウ	○			◎		社会権について、正しく理解しているかを問う。	55	0	
	エ		○	◎	○		新しい人権について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	93	0	
3	ア	○		○	◎	日本の政治のしくみ	法律案の作成について、正しく理解しているかを問う。	65	1	
	イ		○	◎	○		内閣の役割について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	62	1	
	ウ	○			◎		◎	議院内閣制について、正しく理解しているかを問う。	39	1
	エ	○			◎		◎	刑事裁判のしくみについて、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	87	0
4	ア		○	◎	○	日本の選挙制度	日本の選挙制度について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	90	0	
	イ	○			◎		選挙権の年齢の引き下げと被選挙権の年齢について、正しく理解しているかを問う。	61	0	
	ウ		○	◎	○		一票の価値の格差について、資料を活用し、適切に表現できるかを問う。	63	14	
	オ		○	◎	○					
5	ア	○			◎	明治時代の政治と国際情勢	新政府の改革について、正しく理解しているかを問う。	47	0	
	イ		○	◎	○		明治初期の様子について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	65	0	
	ウ	○			○		◎	大日本帝国憲法の内容について、正しく理解しているかを問う。	67	0
	エ		○	◎				帝国議会の開設までのできごとについて、正しい順に並び替えることができるかを問う。	24	1
	オ	○			◎		◎	下関条約で得られた遼東半島の場所について、資料を適切に読み取る力を問う。	49	0
6	ア	○			◎	第一次世界大戦の特徴と影響	第一次世界大戦について、正しく理解しているかを問う。	73	0	
	イ	○			◎		ロシア革命について、正しく理解しているかを問う。	72	0	
	ウ		○	◎	○		第一次世界大戦の日本への影響について、資料を活用し、適切に表現できるかを問う。	66	10	
	エ	○			◎		インドの民族運動について、正しく理解しているかを問う。	80	0	
7	ア		○	◎	○	第二次世界大戦までの日本の動き	普通選挙法によって、有権者数が増加したことについて、正しく理解しているかを問う。	67	0	
	イ		○	◎	○		第一次世界大戦後の日本のようすについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	36	0	
	ウ	○			◎		◎	世界恐慌に対する各国の対応について、正しく理解しているかを問う。	72	0
	エ	○			◎		◎	日本が国際社会から孤立した原因について、正しく理解しているかを問う。	73	0
	オ	○			◎		◎	太平洋戦争の開戦について、資料を適切に読み取る力を問う。	93	0
8	ア	○			◎	第二次世界大戦後の日本と世界	太平洋戦争開戦の時の、日本の首相について、正しく理解しているかを問う。	44	0	
	イ	○			◎		◎	原子爆弾について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	85	1
	ウ		○	◎	○		◎	GHQについて、正しく理解しているかを問う。	88	0
	エ	○			◎		◎	戦後の民主化政策について、正しく理解しているかを問う。	56	0
	オ		○	◎	◎		◎	朝鮮戦争が日本に与えた影響について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	66	0
9	ア		○	◎	○	産業から見た近畿地方の地域的特色	日本が国際連合に加盟した背景について、正しく理解しているかを問う。	36	0	
	イ		○	◎	○		◎	冷戦後の世界のできごとについて、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	41	0
	ウ		○	◎	○		◎	高度経済成長について、正しく理解しているかを問う。	80	0
	エ	○			◎		◎	農業と気候の関わりについて、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	78	2
	オ		○	◎	○		◎	山梨県の農作物の作付面積の変化について、資料を適切に読み取る力を問う。	75	2
10	ア		○	◎	○	人口・都市からみた関東地方の地域的特色	高冷地野菜の栽培について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	80	3	
	イ	○			◎		◎	諏訪湖周辺の産業の変化について、資料を適切に読み取る力を問う。	62	2
	ウ		○	◎	○		◎	中京工業地帯の特色について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	62	4
11	ア	○			◎	身近な地域の調査	神奈川県統計について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	79	3	
	イ	○			◎		◎	関東地方の通勤通学の特色について、資料を適切に読み取る力を問う。	81	3
	ウ		○	◎	○		◎	都市問題への対策について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	48	2
	ア	○			◎		地形図の土地利用や距離の表し方を理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	44	3	
	イ	○			◎		◎	地形図の地図記号や方位の表し方を理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	82	3
	ウ		○	◎	○		◎	地形図を適切に読み取り、実際の風景について適切に判断する力を問う。	75	4

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	69.9
思考・判断・表現	65.7

2. 主な誤答と分析【社会第3学年】

(1) 公民的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
1	ア	3	90	2	2 1	4 2	現代社会の特徴について、基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。日本の食料自給率や少子高齢社会の問題について、資料を正しく読み取ることができていた。基本的な資料の読み取りや、日本が抱える諸問題を資料から読み取る力が定着していると考えられる。
	イ	4	85	0	2 1	9 4	
	ウ	2	98	0	1	2	
2	ア	平和	84	0	民主 国民、人権	10 1	日本国憲法の三大原則や自由権、社会権、新しい権利、憲法改正について、正しく判断し理解しているかをみることをねらいとして出題した。(ア)については「民主主義」という解答が一部見られたが概ねできていた。また(イ)の自由権や(エ)の新しい権利についても十分に理解していた。また(オ)の憲法の改正は時事的な問題であったが理解は一応できていた。しかし(ウ)の社会権に関する正答率がやや低かった。基本的人権については具体的な事例を示し、自らの生活に関連付け、理解させていくことを意識させたい。
	イ	1	92	0	3 2	4 3	
	ウ	4	55	0	1 3	16 15	
	エ	2	93	0	4 3	5 2	
	オ	3	70	0	2 4	20 6	
3	ア	2	65	1	4 1	14 12	日本の政治のしくみについて、「立法権」「行政権」「司法権」の役割を正しく判断し理解しているかをみることをねらいとして出題した。(ア)の国会や(イ)の内閣についての理解は一応できていたが、(エ)の内閣による衆議院の解散についての正答率は39%で、理解がやや不十分である。政治は難しいと考える生徒が多いので、国会や内閣の仕事が私たちの身近なものと感じられるような授業改善が必要になってくる。政治に関心を向けさせることを意識させたい。
	イ	3	62	1	1 4	15 13	
	ウ	1	39	1	3 4	38 12	
	エ	2	87	0	1 3	9 3	
	オ	4	64	0	3 2	21 12	
4	ア	3	90	0	2 1	5 4	日本の選挙制度について、正しく理解しているかどうかをみることをねらいとして出題した。選挙権の年齢引き下げについては理解しているが参議院議員の被選挙権の理解は不十分であった。また一票の価値の格差の説明は一応できていたが、誤答として、「一票の価値」の意味を理解していないものもあった。模擬選挙や身近に行われている選挙を取り上げ、3年後に投票権を得ることへの自覚を深める学習が必要である。
	イ	2	61	0	1 3	34 3	
	ウ	一票の価値が平等ではないこと	63	14	一票の価値を分かっている 一票の価値を大切にしない	3 2	

(2) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
5	ア	4	47	0	2 3	23 23	「新政府の改革」や「遼東半島の位置」については誤答が目立ったが、その他の設問に関しては概ね正答している。ただし、「帝国議会開設までの並べかえ」については、理解が不十分である。単なる語句の暗記になるのではなく、事象と事象の関連を明らかにしながら、時代の流れを捉えさせる必要がある。
	イ	2	65	0	3 1	23 9	
	ウ	2	67	0	1 4	14 11	
	エ	1	24	1	3 4	33 22	
	オ	3	49	0	2 4	21 18	
	カ	1	71	1	2 3	14 11	
6	ア	2	73	0	4 3	21 4	第一次世界大戦のようすやロシア革命などについての理解が、一応できているようである。論述問題については、「無答」の割合が増えたものの、資料を適切に取り取り、表現することが概ねできているようである。今後は、複数の資料を比較、関連付けながら論述する力を養っていくために、授業でも論述する場面をさらに取り入れていくことが必要であると考えられる。
	イ	4	72	0	1 2	13 10	
	ウ	輸出額が輸入額を上回り、景気が良くなった。	66	10	漢字の誤り(輸→輪) 内容が正しくない。		
	エ	1	80	0	3 2	12 5	
	オ	3	67	0	4 1	28 4	
7	ア	3	36	0	1 2	35 21	太平洋戦争の開戦や原子爆弾が投下された場所について、資料を読み取る問題での正答率は高かったものの、戦前の日本のようすや、開戦時の日本の首相についての理解は不十分な点が見られた。歴史的な事象の背景や、影響などを問う設問では理解が不十分という結果となっているため、歴史的な事象の背景やその事象が与えた影響、事象間の関連等を理解し、歴史の流れを大観できるような学習が求められる。
	イ	1	72	0	3 2	15 8	
	ウ	2	73	0	4 3	12 11	
	エ	4	93	0	2 1	4 2	
	オ	4	44	0	2 1	22 20	
	カ	3	85	1	1 2	11 2	
8	ア	2	88	0	1 2	10 2	GHQや高度経済成長など、歴史的な事象を問う設問での正答率には一定の成果が出ている。しかし、日本が国連に加盟した背景や、冷戦後の世界の出来事について正しく読み取り、判断することが不十分な点が見られた。歴史の大きな流れを理解するために必要な力を育てる授業が求められる。具体的には、基礎的基本的な知識の習得、そして各時代の特色を考察し、それを自分の言葉でまとめる活動があげられる。
	イ	4	56	0	3 2	21 17	
	ウ	1	66	0	2 4	19 11	
	エ	2	36	0	4 1	49 9	
	オ	3	41	0	4 1	31 19	
	カ	3	80	0	1 2	16 3	

(3) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
9	ア	4	78	2	1	10	「産業」について「中部地方」を取り上げ、地域的特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。(ア)は2つの資料を合わせて判断する問題であったが、一応できていた。(ウ)の資料の読み取りは十分にできていた。しかし説明文とグラフから考える(エ)や(オ)はやや不十分であった。よって授業では様々な資料を扱い、複数の資料を読み取る力、説明する力、話し合い活動を通して自分の考えを論述する力を身に付ける活動を多く取り入れる必要がある。
					2	7	
	イ	2	75	2	3	13	
					4	7	
	ウ	3	80	3	2	10	
4					6		
エ	2	62	2	1	14		
				3	11		
オ	1	62	4	3	13		
				4	12		
10	ア	1	79	3	2	12	「人口や都市」について「関東地方」を取り上げ、地域的特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。(ア)は人口や耕地面積など4つの内容から神奈川県を考える問題であったが一応できていた。しかし(ウ)の誤答を選ぶ問題はやや不十分であった。川崎市は過密都市なので、人口については自分の地域の問題として考えられるような資料や、市の取組を授業で取り扱うと、より身近に感じることができる。
					3	13	
	イ	4	81	3	1	7	
					3	5	
	ウ	3	48	2	4	18	
2					17		
11	ア	4	44	3	2	39	「身近な地域の調査」について、「青梅」25000分の1の地形図をもとに読み取る技能や考察する力をみることをねらいとして出題した。(ア)の誤答として②の等高線の読み取りを選ぶ生徒が多くいたが、(イ)の学校を選ぶ問題は十分にできていた。また(ウ)の写真から場所を判断する問題は、川の流れや橋の位置から判断し一応できていた。地形図の読み取りは地図記号、方位、縮尺、等高線の見方と、景観写真の読み取りを取り入れ、より多くの地形図を読み取り、柔軟に対応する力を育てたい。
					1	8	
	イ	3	82	3	2	7	
					4	5	
	ウ	2	75	4	4	9	
3					7		

V 全体の考察と今後に向けて

1. 全体の考察

今年度の作問は設問数を50問とし、知識・技能を問う問題と思考・判断・表現を問う問題を昨年度通りのバランスで出題した。知識については基礎基本の確認、技能についても細かい計算の問いにならないことを意識し、資料を正確に比較する力や特徴をつかむ力を問うことを心がけた。

結果を見ると、3年生の「知識・技能」の正答率が低下し、「思考・判断・表現」は1、3年とも若干正答率が上昇している。平成24年度から出題している論述問題の正答率が例年よりも高く、無答率が下がる傾向が見られた（特に1年歴史、2年地理、3年公民）。各学校で「自分の言葉でまとめる」実践がなされている成果が反映していると考えられる。

また、無答率が10%を超える問題数は例年よりも少なかったが、各学年とも他の分野と比べて地理的分野の無答率が高かった。後半の問題になるほど無答率が高くなるとも言える状況で、範囲後半の学習が十分定着していないまま診断テストを迎えている実態がうかがえる。

作成方針にもあるように、「基礎的・基本的な事項について」「定着しているかどうか」を意図して作問した。アンケートの中には難易度を高める希望があったが、正答率・無答率の全市的な状況を見ると、今後も同程度の難易度で推移を見取るべきだと考える。診断テストに向けて特別な対策を取る必要はないが、以下に示す分野ごとの考察も参考にしながら授業改善を図ることで、それぞれの観点における達成度が伸びることを期待したい。

2. 分野ごとの考察

(1) 歴史的分野

① 第1学年

「四大文明の特色」・「古代の外交史を中心とする日本の国家の形成」・「原始～古代の人々の生活」・「武家政治の確立」という4つの大きなカテゴリーに分けて出題した。基礎的・基本的な問題は概ね理解ができているが、特に日本と世界のつながり（外交）に関する出題や文化史は正答率が低かった。時代背景を読み解くと同時に、日本をとりまく世界史を視野に入れて学習する必要性を感じる。また、文化史においてはただ機械的に暗記するのではなく、様々な絵画や書物、建築物にはそれぞれの人物の思いが詰まっているので、それぞれの時代の特色を捉えると同時に作品の内容についても深く学習させたい。

② 第2学年

「中世の日本と社会の変化」については、略年表をもとに、鎌倉時代の後半から安土桃山時代までの特徴やしぐみを時代背景や資料から読み取ることがねらいとして出題した。室町幕府のしぐみや応仁の乱後の社会情勢については、やや不十分な点が見られた。「近世の日本」については、会話文をもとに安土桃山時代の政治やその取り組み、ヨーロッパとの関わりを理解しているかをねらいとした。織田信長と豊臣秀吉の政策について、一応の理解はみられたが、新航路の開拓、桃山文化の特徴について、やや不十分な点が見られ

た。「近世の政治と社会」については、江戸時代のしくみや外交政策、文化や経済をまとめたレポートをもとに、江戸時代の社会の様子と変化を資料から読み取れることをねらいとして出題した。幕藩体制の確立では、藩における参勤交代の影響を問う論述問題を出題したが、不十分であり、無答も多く見られた。また、外交政策の転換では、鎖国までの流れを明記したカードを並び替える問題であったが、正答率が低かった。「近代の日本と世界」については、カードやグラフをもとに欧米諸国の接近や江戸時代後半の社会の変動を資料から読み取れることをねらいとして出題した。開国後の輸出入の変化や物価の変動を読み取る問題は、一応の理解は見られたが、開国から倒幕への動きを並び替える問題では、やや不十分な点が見られた。

全体を通して、各時代の歴史的な事象を時代背景や他国との関わりを関連付けて捉えさせることが大切だと感じた。「近世の日本」について、織田信長と豊臣秀吉の政策を問う問題では、正答率は50～70%であった。論述問題については、正答率が24%と低く、無答率も27%ということもあり、問題の出し方の工夫や資料の精選を行うことがこれからの課題である。

③ 第3学年

「日本の近代化と東アジア」については、略年表をもとに、新政府の改革から日本が近代化していく流れを理解しているかを問う問題を出題した。「新政府の改革」や「遼東半島の位置」については誤答が目立ったが、その他の設問に関しては概ね正答している。ただし、「帝国議会開設までの並べかえ」については、理解が不十分であるため、生徒の苦手意識が強く反映されている。

「第一次世界大戦と日本」については、カード形式の資料をもとに、第一次世界大戦の背景や、世界へ与えた影響について、正しく理解し、表現できているかを見ることをねらいとして出題した。論述問題については、「無答」の割合が増えたものの、資料を適切に読み取り、表現することが一応できているようである。その他の設問に関しても、概ね正解している。

「第二次世界大戦」については、会話文をもとに、当時の国内外の様子や戦争の開戦について正しく理解しているかを問う問題を出題した。太平洋戦争の開戦や原子爆弾が投下された場所について、資料を読み取る問題での正答率は高かったものの、戦前の日本のようすや、開戦時の日本の首相についての理解は不十分な点が見られた。

「戦後の日本と世界」については、敗戦から復興までをまとめた新聞をもとに、民主化政策や朝鮮戦争の影響、冷戦後の世界の出来事を正しく理解し、判断できているかを見ることをねらいとして出題した。GHQや高度経済成長など、語句を選ぶ問題での正答率は高かったが、できごとの年代を選択する問題や、冷戦後の世界のできごとについて正しく読み取り、判断することが不十分な点が見られた。

全体を通して、歴史的な事象について、知識を問う設問の正答率は高かったが、あわせてその背景や与えた影響などについても関連付けてしっかりと捉えさせたい。また、時代の並べかえなどに関しては、理解が不十分であるため、事象と事象のつながりについて、因果関係を明らかにしながら関連付けて理解できるようにしていくことが重要である。

(2) 地理的分野

① 第1学年

「世界の姿」では、世界の地域構成に関して、大陸と海洋の分布、緯度と経度、主な国々の名称と位置、様々な地図の読み取り、地域区分などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかを見ることをねらいとして出題した。主な国々の名称と位置は十分理解でき

ているが、大陸と海洋の分布、緯度と経度の現在の位置については理解がやや不十分であった。

「世界各地の人々の環境と生活」では、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会条件と関連付けて、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。それぞれの気候帯の特徴や世界各地の人々の生活の様子を資料から読み取り判断する力は、一応できていると考えられるが、資料を読み取り、その宗教が分布している地域については、やや不十分であった。

「世界の諸地域」に関しては、「アジア州」・「ヨーロッパ州」・「アフリカ州」を取り上げた。「アジア州」では、「人口増加と急速に経済発展するアジア」という主題から、基本的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。基本的な統計資料の読み取りや、知識の問題は一応できていると考えられる。アジアの気候に合わせた農業の考察はやや不十分で、東南アジアへの日本企業の進出についての考察は不十分であった。

「ヨーロッパ州」では、「EUの発展と地域格差」という主題から、基本的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。基本的な資料の読み取りは一応できていると考えられる。ヨーロッパの農業地域についての知識はやや不十分であった。

「アフリカ州」では、「人々の生活の変化と自立への課題」という主題から、基本的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。基本的な資料の読み取りは一応できていると考えられる。アフリカの気候の分布についてはやや不十分であった。

地理的分野では、基礎的な知識は概ね定着しており、基本的な統計資料の読み取りや様々な地図を読み取る力についても概ね定着している。しかし、複数の資料や情報、知識を結びつけて変化を読み取る力は不十分な部分が多い。また、それぞれの地域の気候に合わせた農業の分布や特徴を読み取る力が不十分である。今後の授業では、複数の資料を比べたり、読み取ったりする活動をさらに多く取り入れていく必要がある。また、その気候に合った農業や農産物の特徴を読み取る機会を多く設定していく必要がある。

② 第2学年

「世界の諸地域」では、「北アメリカ州」、「南アメリカ州」、「オセアニア州」を取り上げ、世界の諸地域の地形などの基礎的な知識の定着の上に、資料を活用したり、地理的事象を正しくとらえたりすることができるかをねらいとして出題した。

「北アメリカ州」では、人種に関する問題や時差についての問題の正答率が4割程度であった。「南アメリカ州」では、地形や気候の特色を読み取る問題の正答率が39%であった。「オセアニア州」では、資料を読みきれておらず、特に雨温図を読み取る問題の正答率は低かった。

「日本の姿と地形」では、日本の領土の範囲、排他的経済水域、日本の土地利用、県庁所在地について、様々な資料から地理的な内容が理解できているかをみようとしたりした。日本の範囲については、地図上で正しく位置を判断できていないことがうかがえる。日本の領土問題では、正答率が58%であり、領土に関する基礎的な知識が定着していない。排他的経済水域や日本の土地利用については、基礎的な知識の定着が一応できている。県庁所在地の位置については、正答率が低かった。

「世界と比べた日本の地域的特色」では、世界の地形、世界の河川、人口、資源・エネルギー、林業、漁業について、複数の資料を正しく読み取って判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。(イ)の論述問題では、正答率が53%になり、読み取った地理的事象を適切に表現する力が身につけてきていると思われる。日本の漁業の変化についての資料を読み取る問題は、他の問題と比較して正答率が低かった。

「日本の諸地域」では、自然環境を中核に九州地方を取り上げ、また、他地域との結びつ

きを中核に中国・四国地方を取り上げた。様々な資料をもとに考察し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。資料やグラフの読み取りの正答率も高く、基礎的基本的な知識が確実に定着していることが読み取れる。

全体を通して、資料を活用する問題では、概ね正答率が高かったが、世界の地形や都道府県の県庁所在地の位置など基礎的な内容の定着が十分だとはいえない結果になった。論述に関しては、正答率が53%ある一方で、無答率も19%程あった。今後の授業では授業の内容が確実に定着するように、授業の中で学習内容の確認の時間を増やしていくことが大切であるとする。

③ 第3学年

「産業」について「中部地方」を取り上げ、地域的特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。問9の(ア)は2つの資料を合わせて判断する問題であったが、一応できていた。(ウ)の資料の読み取りは十分にできていた。しかし説明文とグラフから考える(エ)や(オ)はやや不十分であった。

「人口や都市」について「関東地方」を取り上げ、地域的特色を正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。問10の(ア)は人口や耕地面積など4つの内容から神奈川県を考える問題であったが一応できていた。しかし問10の(ウ)の誤答を選ぶ問題はやや不十分であった。

「身近な地域の調査」について、「青梅」25000分の1の地形図をもとに読み取る技能や考察する力をみることをねらいとして出題した。問11の(ア)の誤答として②の等高線の読み取りを選ぶ生徒が多くいたが、(イ)の学校を選ぶ問題は十分にできていた。また(ウ)の写真から場所を判断する問題は、川の流れや橋の位置から判断し一応できていた。

全体を通して、基本的な資料を読み解く力は定着しているが、複数の資料や情報を結び付けて多面的・多角的に考え判断する問題は、十分ではないことが分かる。今後は複数の資料を読み取りながら、判断する力を育てる機会を増やしていくことが大切であるとする。

(3) 公民的分野

「現代社会のようす」について、様々な資料を読み取り、現代社会の特徴を正しく判断し理解しているかを見ることをねらいとして出題した。資料の読み取りについては十分であった。

「日本国憲法」と「基本的人権」について、具体的な事例をもとに日本国憲法の三大原則や自由権、社会権、新しい権利、憲法改正について、正しく判断し理解しているかをみることをねらいとして出題した。問2の(ア)については「民主主義」という解答が一部見られたが概ねできていた。また問2の(イ)の自由権や(エ)の新しい権利についても十分に理解していた。また問2の(オ)の憲法の改正は時事的な問題であったが理解は一応できていた。しかし問2の(ウ)の社会権に関する正答率がやや低かった。

「日本の政治のしくみ」について、「立法権」「行政権」「司法権」の役割を正しく判断し理解しているかをみることをねらいとして出題した。問3の(ア)の国会や(イ)の内閣についての理解は一応できていたが、問3の(エ)の内閣による衆議院の解散についての正答率は39%と理解はやや不十分であった。

「日本の選挙制度」について、正しく理解しているかどうかをみることをねらいとして出題した。選挙権の年齢引き下げについては理解しているが参議院議員の被選挙権の理解は不十分であった。また一票の価値の格差の説明は一応できていたが、誤答として、「一票の価値」の意味を理解していないものがみられた。しかし昨年度の公民的分野の論述問題と比較すると、無答の割合が減ったことを考えると、文章で表現しようとする意欲は感じられた。

全体を通して、昨年度と同様に基礎・基本の理解の面で、「現代社会」や「日本国憲法」「選

挙制度」に関するものは概ね理解しているのに対し、「政治制度」に関するものの定着がやや不十分である。近い将来の主権者としての自覚を深めさせるために、政治が私たちの身近なものと感じられるような授業改善と、生徒同士が学びあって探究していくような授業改善が必要になってくる。

3. 指導にあたって

(1) 知識・技能を問う問題について

歴史的分野については、「平清盛が開いた港の位置」「バスコ＝ダ＝ガマが発見した航路」「遼東半島の位置」など、地図上で問うものの理解がやや不十分であった。「原爆を投下された場所の組み合わせ」は高い正答率を示していたので、小学校からの既習事項は定着しやすいものと考えられる。地図上の位置関係の理解を苦手としている生徒が多いことを念頭におき、授業で取り扱う必要がある。歴史を大観する、あるいは転換の様子をとらえる上で、その位置がどのような意味を持つのかを問うなどして、理解する必要性を伝えながら指導したい。

地理的分野については、「我が国の領域をめぐる問題」「都道府県と県庁所在地」「地形図の読み取り」の理解がやや不十分であった。領土・領域の取り扱いについては各校で工夫されていると思われるが、混同している生徒が多いのが実情である。都道府県と県庁所在地や地形図に関しては、一度学習しただけでは簡単には定着しない。単に覚えるだけの学習にならないように配慮し、日本の諸地域で適宜取り上げるなどして指導したい。

公民的分野については、「社会権」「内閣不信任決議案可決後の手続き」の理解がやや不十分であった。論述問題ではあるが、「一票の価値の格差」の意味が分からずに解答できないケースも目立った。基本的人権や議院内閣制については民主政治の根幹に関わるので、日常の具体的な事例を取り上げて権利を理解させること、政治権力が特定のものに集中し、濫用されることを防止するためにさまざまなしくみがあることなど、意味を考えながら学習できる工夫を継続したい。

(2) 思考・判断・表現を問う問題について

歴史的分野については、写真から特徴を読み取り、どの時代にあてはまるかを判断するもの、時代背景や国際関係を踏まえて考えるものの正答率が依然として低い。言語活動の充実が図られていることによって、表現することには慣れている面が見られるので、産業の発達や社会の様子、文化の変化について写真や絵画資料を活用して考える学習活動を取り入れ、各時代の特色を自らとらえられるようにしたい。

地理的分野については、「アジア州の年間降水量と農業の関連」「シドニーの雨温図の選択」の正答率が低かった。1年生で生活の様子と雨温図の関連の正答率は高いが、それが応用できていない様子が見られる。「世界各地の人々の生活と環境」や「世界と比べた日本の地域的特色」で学習したことが、「世界の諸地域」「日本の諸地域」で活用できるようにしたい。雨温図や主題図を関連づけて考える学習活動を繰り返すことによって、改善を図りたい。

公民的分野については、思考・判断・表現にあたる設問がいずれも一応できていた。政治制度に関するものはやや正答率が下がるので、しくみの理解だけでなく、国民自身が議会制民主主義を守る努力をする必要性など、しくみの背景にある理念を考えさせたい。

4. 授業改善に向けて

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」によると、「学ぶことの楽しさや意義が実感できているかどうか」「自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識を持てているかどうか」について、肯定的な解答が国際的に見て相対的に低いとされている。現行の学習指導要領のもとで、言語活動の充実を図る実践が積み重ねられ、その前提となる資料を読み取る力も定着してきている。ただ、時として、「話し合う」ことが手段ではなく、目的となってしまうか注意する必要がある。「基礎・基本」が共有できた状況で話し合っているか、学習のねらいに対して、話し合うという方法が有効なのか、題材は適切か、まだ検討の余地が多いと考えられる。これがかみ合っていないと、「学ぶことの楽しさや意義」が実感できなくなってしまう。各分野の單元ごとに、学ばせたい「基礎・基本」を精選し、繰り返し取り扱って定着をはかりたい。そして、單元の中に「学びたい」「話し合いたい」と思えるような課題を位置づけ、「基礎・基本」を活用できたか、話したことがねらいに迫っていたかなど、これからも指導に生かす評価を心がけたい。その繰り返しが、主体的な学びにつながるものと考えられる。

